



今回のMeet the Bossは国立国際医療研究センター脂質シグナリングプロジェクトプロジェクト長/東京大学大学院医学系研究科リポドミクス社会連携講座 特任教授の清水孝雄先生をお迎えました。清水先生のご希望により、聞き手を、かつて清水先生の研究室で生化学を学ばれた尾藤晴彦先生と和賀巖先生にお願いし、3名の先生方による座談会形式で進めさせていただきました。初めて披露される清水先生の子供時代のエピソードから、脂質・生化学にかかわる研究の最先端のお話まで、3名の先生方が時間を忘れて繰り広げられた熱心なお話をぜひお楽しみください。(編集部)

清水 孝雄

(しみず・たかお)

1947(昭和22)年東京生まれ。1973(昭和48)年、東京大学医学部医学科を卒業、同 附属病院内科 研修医として臨床経験を重ねた後、1975(昭和50)年4月から京都大学医学部医化学教室に所属、早石修教授のもとで生化学を学び、基礎研究の分野に進むことを決意した。スウェーデンのカロリンスカ研究所に留学後、東大に戻り、医学部栄養学教室 助教授を経て、1991(平成3)年、医学部生化学第二講座 教授に就任した。以後、生化学、分子生物学に基づいた豊富な知識と経験をもとに多彩な研究を展開、内外から高く評価され、脂質代謝研究の領域に独特の存在感を確立した。2009(平成21)年、日本学士院賞を受賞。マネジメント能力にも手腕を発揮し、2007(平成19)年4月～2011(平成23)年3月、東京大学医学系研究科 科長・医学部長、2011(平成23)年4月～2013(平成25)年3月まで東京大学 理事・副学長を務めた。研究医の養成に尽力し、文科省の「基礎医学者養成プログラム」の委員長を務めた。2012(平成24)年、定年により東大教授を退職。退職後は国立国際医療研究センター脂質シグナリングプロジェクト プロジェクト長および東京大学大学院医学系研究科リポドミクス社会連携講座 特任教授として、現在も研究の最先端に居場所を定め、脂質膜をめぐる未解決のテーマに日夜取り組んでいる。

聞き手

尾藤 晴彦

東京大学医学系研究科脳神経医学専攻神経生化学教室 教授



聞き手

和賀 巖

NECソリューションイノベータ(株) プロフェッショナルフェロー/イノベーションラボラトリ所長
東北大学革新的イノベーション研究プロジェクト 拠点長/同 産学連携機構 客員教授